



まちづくり団体の取り組み ～こんなことやってます～

「NPO法人 茨城の暮らしと景観を考える会 (WILL)」～暮らしに密着した景観は美しい～

その土地らしさを一人が光るまちー

地域独自の文化、暮らしを違和感なくつなぎ合わせ、より豊かさの感じられる地域づくりへと発展させる。そして、そこにあるべきものが自然にそこにあって、初めて違和感のない景観、循環型の生活が形成される。そんなとき、その土地と、そこで生活する人は癒され、光を発する・・・。

まちづくりNPO「茨城の暮らしと景観を考える会 (WILL)」は、そんな地域づくりをめざし、2003年の5月に発足しました。

WILLの活動

WILLには、建築や都市計画といった分野にとどまらず、広くまちづくりに関係する様々な分野の方が会員として集まっています。現在の会員数は73名です。

部会は「景観研究部会」「農村部会」「水戸の街なか部会」の3つ。行政と民間の中間に位置するNPOならではの特性を活かし、積極的に事業を展開しています
美しい景観を守り育てる

景観研究部会では、県と市町村合同の「景観研究会」を開催しています。景観は田園的なものから歴史的、都市的なものまで多様で、その研究には横断的な組織が必要です。県庁内の関連部署と30市町村ほどが連携し、研究を進めています。

また、弘道館で「雅楽の演奏会」を開催しました。このようなイベントは、県内の重要文化財では初めての試みでしたが、予想を上回る大成功を収めました。



【茨城県や市町村との景観研究会】



【弘道館と雅楽に親しむ夕べ】

農村部のまちづくりを考える

農村部会では、「観光立国と農業」と題するシンポジウムを開催しました。これからの日本にとって大切な観光と農業の二つを切り口にしたシンポジウム、参加者の内訳が特徴的で、行政、民間、それから市民団体がちょうど3分の1ずつ。新しい地域づくりがこの3者の協力で進んでゆくという構造がはっきりしました。また、これからの農村地域を考えるための勉強会も開催しています。



【シンポジウム「観光立国と農業」】



【日本農業実践学園の加藤学園長】



水戸の街なか再生を考える

水戸の街なか部会では、水戸芸術館やJCTとタイアップした「街なか再生のための連続講座」を開催、また「水戸空間診断 dead or alive」という冊子を発刊。中間組織ならではの視点が好評で、新聞各紙で取り上げられました。



【街なか再生のための連続講座】



【冊子「水戸空間診断 dead or alive」】

そして現在、地元の学生たちや商店街の方と一緒に、水戸の街なかの景観マップの作成や、快適な商業空間としての裏通りづくり、さらにリノベーションによって甦った古い木造アパートを活用したチャレンジショップ事業の準備を進めています。



【街なかでのワークショップ】



【チャレンジショップの舞台】

W I L Lの今後

今後は、景観緑三法に対応したシンポジウムの開催と景観形成のための市町村支援活動などを企画しています。

これらの活動を通して実感することは、「NPOが地域を刺激する」ということです。閉塞したまだ先の見えない社会の中で、一つでも二つでも新しい時代へ向けての第一歩を、地域の中から生み出してゆく努力が必要です。非営利で、しかも行政でもない民間でもない、そんな中間組織としてのフリーな立場が、地域社会の最も期待するまちづくり活動を可能にしています。そしてその活動は、地域社会を刺激し、新しい方向へ動き出すきっかけづくりになっているようです。

さらに様々な方々と一緒に、より役に立つ活動が続けることが出来たら、そして、新しい時代を切り開く一助にでもなれたら、と願っています。

W I L L事務局

〒311 4153 水戸市河和田町4471-45

W I L L 事務局長 三上靖彦

電話・FAX 029-253-6540

<http://www.sunshine.ne.jp/~will/>